

# 第4学年

## 年間指導計画

## 第4学年の指導計画作成のポイント

### 1 目標と改訂のポイント

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを旨とする。

(1) 自分たちの都道府県の地理的環境の特色、地域の人々の健康と生活環境を支える働きや自然災害から地域の安全を守るための諸活動、地域の伝統と文化や地域の発展に尽くした先人の働きなどについて、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。 <知識及び技能>

(2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。 <思考力、判断力、表現力等>

(3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。 <学びに向かう力、人間性等>

(1) <知識及び技能>の改訂のポイント

・第4学年で取り上げる地域の範囲が「自分たちの都道府県」と明確に示され、人々の生活との関連を踏まえて理解することが重視された。また、技能については、「必要な情報をまとめる技能」を身に付けられるようにする。これは、第3学年と同様の目標で、2年間を通して身に付けさせていくこととなる。

(2) <思考力、判断力、表現力等>の改訂のポイント

・第3学年と同様の目標となっている。旧学習指導要領と比較し、思考力については「意味」を考えること、判断力として「社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力」が追加されている。また、表現力についても「選択・判断」したことを表現する力が新たに明記されている。2年間を見通して、学習内容や発達の段階に応じて、思考力・判断力・表現力等を確実に身に付けさせていくことが重要である。

(3) <学びに向かう力、人間性等>の改訂のポイント

・これまでの「地域社会に対する誇りと愛情」「地域の一員としての自覚」に加え、思考や理解を通して「主体的に問題を解決しようとする態度」や「学習したことを社会生活に生かそうとする態度」を養うことが示された。

### 2 内容の改訂ポイントと単元配列案

- |                          |   |
|--------------------------|---|
| ○内容(1)「都道府県の様子」          | ← 旧第3学年及び第4学年内容(6)                              |
| ○内容(2)「人々の健康や生活環境を支える事業」 | ← 旧第3学年及び第4学年内容(3)                              |
| ○内容(3)「自然災害から人々を守る活動」    | ← 旧第3学年及び第4学年内容(4) 取り上げる事例から風水害、地震などの自然災害を分けて設定 |
| ○内容(4)「県内の伝統や文化、先人の働き」   | ← 旧第3学年及び第4学年内容(5)イ、ウ<br>「県内の～」として、学習対象の範囲を明記   |
| ○内容(5)「県内の特色ある地域の様子」     | ← 旧第3学年及び第4学年内容(6)ウ                             |

#### ☆単元配列案

合計時数 90 時間

	学習指導要領の内容	小単元名	配当時数
(1)	都道府県の様子	都道府県を調べよう～東京都の様子	8 時
(2)	人々の健康や生活環境を支える事業	水はどこから	10 時
		ごみのしよりと利用	10 時
(3)	自然災害から人々を守る活動	(選択) 地震からくらしを守る	12 時
		(選択) 水害からくらしを守る	
(4)	県内の伝統や文化、先人の働き	東京都に残る「くらやみ祭」	10 時
		(選択) 届けよう命の水～玉川兄弟と玉川上水の開発～	10 時
		(選択) 東京のまちを築いた人～後藤新平～	
		(選択) 病とたたかった人々～伊東玄朴らと種痘所～	
(5)	県内の特色ある地域の様子	染め物のさかんな新宿区	10 時
		(選択) 豊かな自然を守り生かす小笠原	10 時
		(選択) 豊かな自然を守り生かす八丈島	
		(選択) 江戸の文化を伝える浅草のまち	
		世界とつながる大田区	10 時

### 3 学習指導要領の内容構成及び内容の取扱い

	内容構成			内容の取扱い
	着目すること	考え方	理解すること	
内容(1)	(ア)我が国における自分たちの県の位置、県全体の地形や主な産業の分布、交通網や主な都市の位置など	調べたことを総合して県の取的環境の特色を考える。	自分たちの県の地理的環境の概要を理解する。 47 都道府県の名称と位置を理解する。	・都道府県の名称については、国語科との連携を図り、漢字の表記に慣れるよう配慮する。
内容(2)	(ア)供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力など	調べたことを総合して捉え、飲料水、電気、ガスを供給する事業が果たす役割を考える。	飲料水、電気、ガスを供給する事業は、安全で安定的に供給できるよう進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解する。	・現在に至るまでに仕組みが計画的に改善され公衆衛生が向上してきたことに触れる。 ・ア(ア)イ(ア)については、飲料水、電気、ガスの中から選択して取り上げる。ア(イ)イ(イ)については、ごみ、下水のいずれかを選択して取り上げる。 ・飲料水等の供給や廃棄物の処理をする事業について、自分たちにできることを考えたり選択・判断したりできるよう配慮する。
	(イ)処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力など	調べたことを総合して捉え、廃棄物を処理する事業が果たす役割を考える。	廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解する。	・廃棄物を処理する事業において、法やきまりについて取り扱う。
内容(3)	(ア)過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力など	調べたことを総合して捉え、自然災害から人々を守る活動の働きを考える。	地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対して、様々な備えをしていることを理解する。	・地震災害、津波災害、風水害、火山災害、雪害の中から、過去に県内で発生したものを選択して取り上げる。 ・「関係機関」については、「県庁や市役所の働きを中心に取り上げ、防災情報の発信、避難体制の確保などの働き、自衛隊など国の機関との関わりを取り上げる。 ・地域で起こり得る災害を想定し、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりできるように配慮する。
内容(4)	(ア)歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組など	調べたことを総合して捉え、人々の願いや努力を考える。	県内の文化財や年中行事は、地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解する。	・県内の主な文化財や年中行事が大まかに分かるようにする。当時の世の中の課題や人々の願いなどについては、それらの中から具体的事例を取り上げる。 ・地域の発展に尽くした先人については、開発、教育、医療、文化、産業などの事例から選択して取り上げる。
	(イ)当時の世の中の課題や人々の願いなど	調べたことを総合して捉え、先人の働きを考える。	地域の発展に尽くした先人は、様々な苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したことを理解する。	・地域の伝統や文化の保存や継承に関わって自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりできるよう配慮する。
内容(5)	(ア)特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係など	調べたことを総合して捉え、自然環境や人々の活動、産業の歴史的背景、人々の協力関係などの特色を考える。	県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解する。	・伝統的な技術を生かした地場産業の盛んな地域、国際交流に取り組んでいる地域、地域の資源を保護・活用している地域を取り上げる。保護・活用の事例では、自然環境、伝統文化のいずれかを選択して取り上げる。 ・国際交流に取り組んでいる地域を取り上げる際には、我が国や外国には国旗があることを理解し、それらを尊重する態度を養うよう配慮する。

### 4 教材や指導の工夫

- 内容(1)「都道府県の様子」では、県の位置、県全体の地形や産業の分布、交通網や都市の位置などに着目しながら追究し、県の概要を捉え、地理的環境の特色を考え表現できるようにする。また、実際の指導にあたっては、県の地図や地図帳を十分に活用することも大切である。
- 内容(2)「人々の健康や生活環境を支える事業」では、「飲料水、電気、ガス」、「ごみ、下水」から、地域の実態や単元構成などを考慮し、各1事例を選択をする。また、供給や処理の仕組みが過去から現在に至るまでに計画的に改善され、公衆衛生が向上してきたことを取り上げて、それらの事業の働きを考えたり、追究したことを基に自分たちにできることを考えたり選択・判断したりできるようにすることが大切である。
- 内容(3)「自然災害から人々を守る活動」では、過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、過去にどのような自然災害が発生し、どのような被害をもたらしたのか、また、被害を減らすために関係機関や人々はどうのように協力しているのかなどの問いを設けて調べたり、人々の生活と関連付けて考えたりしていくことが大切である。
- 内容(4)「県内の伝統や文化、先人の働き」では、歴史的背景や時間的な経過をとらえながら、当時の人々の思いや苦勞、伝統や文化を継承する人々の思いや努力などを追究していくことが大切である。そして、このような学びを基に、地域の伝統や文化を保護したり継承したりするために自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして、地域に対する誇りや持続可能な社会を担おうとする態度を育てていくことが大切である。
- 内容(5)「県内の特色ある地域の様子」では、伝統的な技術を生かした地場産業が盛んな地域、国際交流に取り組んでいる地域及び地域の資源（伝統的な文化または自然環境）を保護・活用している地域から、各1事例を取り上げる。学校のある地域の実態などを考慮し、適切な事例地を都内から選択することが大切である。

単元名	都道府県を調べよう 東京都の様子	配当8時間	内容 (1) アの (ア) 及び (イ) とイの (ア)
-----	------------------	-------	------------------------------

<主として「地理的環境と人々の生活」の区分>

## 1 小単元の目標と観点別評価規準

### (1) 目標

東京都の様子について、我が国における東京都の位置、東京都全体の地形や主な産業の分布、交通網や主な都市の位置などに着目して、地図帳や各種資料などを用いて調べて白地図などにまとめ、東京都の様子を捉え、東京都の地理的環境の特色を考え、表現することを通して、東京都の地理的概要及び、47都道府県の名称と位置を理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

### (2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①国内における東京都の位置、隣接する県との位置関係、都全体の地形や主な産業、交通網の様子や主な都市の位置などについて、地図帳や各種の資料などで調べ、必要な情報を集め、読み取り、東京都の様子について理解している。 ②調べたことを白地図などにまとめて、東京都の地理的環境の概要及び、47都道府県の名称と位置を理解している。	①東京都の位置、東京都全体の地形や主な産業の分布、交通網や主な時の位置などに着目して、問いを見出し、東京都の様子について考え、表現している。 ②日本全体における東京都の位置、都全体の地形の様子、産業の分布や交通網の広がりなどを、関連付け、総合などして東京都の地理的環境の特色を考え、表現している。	①東京都の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

## 2 指導計画の作成にあたって

### (1) 学習指導要領との関連

- ①新学習指導要領から学年の最初で取り扱う単元となり、その後の学習の基盤となる内容である。例えば「飲料水を供給する事業」の学習では、水源地やダムのある他県の地理的位置を把握していることで、他県とのつながりが分かりやすい。その後の単元の内容をしっかりと踏まえて指導計画を立てることが大切である。
- ②本単元では中心資料として地図帳を積極的に活用することが求められる。その中で、基礎的な地図帳の使い方（地図記号、等高線、索引、縮尺）を指導することが大切である。また、47都道府県は漢字で書けるように指導することとなった。指導する時期について国語科との関連を図るようにする。

### (2) 教材や資料の工夫

- ①地図帳、写真、立体地図模型を利用する。それにより、隣接する県、土地の高低、土地利用の様子などに注目させ、社会的事象の見方・考え方（位置や空間的な広がり、比較）を働かせながら、東京都の地形の概要について調べたり考えたりできるようにする。
- ②東京都のホームページを利用する。それにより、産業の分布や交通網の広がりの様子について着目させ、社会的事象の見方・考え方（事象や人々の相互関係）を働かせながら地形と土地利用や産業との関わりについて調べたり考えたりできるようにする。
- ③首都東京としての機能についても目を向けさせる。（官公庁や大使館、商業地、交通の集中など）

### (3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①東京都の特徴を白地図に書き入れ、最後にそれらをミニガイドブックなどにまとめることを通して主体的な学習を促す。また、表紙に特徴を短い文でまとめるときには話合いの活動を設定し、互いの考えを聞き合い、質問をしたり、助言をしたりしながら、「対話的な学び」を深めていけるようにする。
- ②47都道府県の学習では、日本地図を使って大まか国土の様子を捉えられるようにする。その際、名称とともに、日本地図上の位置を説明させたり、クイズ形式で出題したりするなどして、児童が主体的に取り組めるように工夫をする。知っている県や行ったことのある県などについてのクイズ作りをすることで楽しみながら学習を行うことができる。
- ③地図で地形の様子を読み取りながら、紙粘土等を使用して東京都の立体地図を作ると、実感をもって土地の様子を理解できるようにする上で効果的である。



### 3 小単元の指導計画 (8時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される児童の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点◎資料【評価】)
つかかむ	①②日本における東京都の位置やまわりの件の様子について調べ、理解する。	○東京都における自分たちの地域の場所を伝え合う。 ◆東京都は日本のどのあたりにあるだろう。 ○東京都の位置を地図帳で調べ、言葉で説明し合う。 ◆東京都の周りには、どのような県があるだろう。 ○東京都の周りの県の位置や様子を地図帳で調べ、伝え合う。 ・東京都の南には神奈川県があり、東京都と同じで西の方に山がある。	◎地図帳 □東京都の位置を八方位を用いて説明する。 □隣接県を東京都から見た方位で表す。隣接県と比較して東京都の地形の概要を捉えさせる。【知①】
	③東京都の様子に関心を持ち、学習問題をつかむ。	◆東京都にはどのようなところがあるのだろう。 ○東京都の様々な場所の写真を見て話し合う。 ○東京都の様子について知っていることをカードに書き、交流しながら学習問題をつくる。 東京都はどのような様子なのだろう。 ○学習問題に対して予想したことから学習計画を立てる。 ・東京都の地形や土地利用、交通の様子はどのようなのだろう。	◎東京都の地図、地図帳 ◎様々な場所の写真(檜原村、小笠原、浅草、大田区、新宿等)【思①】 □自分の経験を振り返らせ話し合う。【態①】
調べ	④東京都全体の地形の様子を調べる	◆東京都の地形の様子はどのようなになっているのだろう。 ○東京都の地形の様子を調べ伝え合う。 ・西から山地、丘陵地、台地、低地と東に向かって土地が低くなっている。	□白地図作業を通じて西から東に低くなっていることに気付かせる。【知①】
	⑤東京都の土地利用の様子等をもとに、産業の分布について調べる。	◆東京都は、どこで、どのような産業がさかんなのだろう。 ○東京都の地形と土地利用や産業について調べ、白地図にまとめて、その関わりについて話し合う。 ・低地は住宅地や商業地が広がっている。 ・丘陵地の畑では野菜が作られている。 ・台地や丘陵地には工業地が点在している。 ・山地には森林が広がっている。	□東京都の産業統計から盛んな産業を調べ、東京都の土地利用から産業の分布について捉える。 □地形と関連付けて考えるように助言する。 ◎都産業統計図【知①】
	⑥交通網の様子を調べる。	◆東京都の交通網はどのようなになっているのだろう。 ○交通網を調べて白地図にまとめる。 ・中心部には交通が集中し、都庁(新宿区)や官庁(千代田区)大使館(港区)などがある。 ・多摩地区では、立川・八王子・青梅・府中が地域の中心としての役割を果たしている。 ・23区には地下鉄が張り巡らされている。	□交通と主要都市の関係を考えさせる。 □鉄道・道路・航空・海上などの交通網が首都圏に集中していることを抑える。 ◎路線図・航路図など【知①】【思①】
まとめ	⑦東京都の地理的環境の特色について考え、話し合う。	◆東京都の特徴を伝えるためには、ミニガイドブックの表紙に、どのようなことを書いたらよいだろう。 ○東京都の特色を話し合っ短い言葉でまとめ、話し合う。 ・東京都は47都道府県の1つであり、地形は山地、丘陵地、台地、低地に分けられ、地形によって土地の使われ方が違う。交通網が整備され、他県とつながっている。	□東京都の特徴を話し合う。
め		○調べたことや考えたことをミニブックにまとめ読み合う。	【知②】【思②】
	⑧日本地図を使って47都道府県を調べる。	◆47都道府県はどこにあり、どのような特徴があるのだろう。 ○県名クイズを出し合い、都道府県の特徴をつかむ。 ○47都道府県名を白地図に書き込み覚える。	◎地図帳、日本各地の写真 □地図帳をもとにクイズを出し合い、関心を高める。 □47都道府県を漢字で書けるように白地図作業を適時取り入れる。【知②】

小単元名	水はどこから	配当10時間	内容(2)アの(ア)及び(イ)とイの(イ)
------	--------	--------	-----------------------

<主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分>

## 1 小単元の目標と観点別評価規準

### (1) 目標

飲料水などを供給する事業について、供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、まとめ、それらの事業が果たす役割を考え、表現することを通して、安全で安定的に供給できるように進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解できるようにするとともに、学習問題を主体的に追究・解決し、学習したことを基に自分たちが協力できることを考えようとする態度を養う。

### (2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして必要な情報を集め、読み取り、飲料水の供給のための事業の様子を理解している。</p> <p>②調べたことを白地図や図や文章などにまとめ、飲料水を供給する事業について、安全で安定的に供給できるように進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解している。</p>	<p>①供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、問いを見出し、飲料水の供給のための事業の様子について考え表現している。</p> <p>②供給の事業に見られる仕組みや人々の協力関係と地域の人々の健康や生活環境を関連づけて、それらの事業が果たす役割を考えたり、学習したことを基に節水のために自分たちにできることを選択・判断したりして、適切に表現している。</p>	<p>①飲料水を供給する事業について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。</p> <p>②よりよい社会を考え、学習したことを基に、社会への関わり方を選択・判断しようとしている。</p>

## 2 指導計画の作成に当たって

### (1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(2)の「人々の健康や生活環境を支える事業について」に関する内容で構成している。事例としては、飲料水を供給する事業を中心に取り上げているが、飲料水で学んだ視点(安全・安定)で電気やガスも学習することでライフラインの重要性について理解できるようにする。
- ②内容の取扱いに示された「節水や節電など自分たちにできることを考えたり選択・判断したりできるよう配慮すること」については「いかす」段階で企業等の節水のための努力を知るとともに、子供が節水のためにどのような行動をするかを考えられるように意図している。

### (2) 教材や資料の工夫

- ①小単元の導入で、昭和39(1964)年の渇水を取り上げる。水道事業が現在に至るまでどのように改善してきたかに着目させ、社会的現象の見方・考え方(時期や時間の経過、位置や空間的な働き)を働かせながら、浄水場・ダム建設や役割、他地域との協力、水源林の広がりや保全について調べたり考えたりできるようにする。
- ②現在、安全で安定的に供給できるようになっているが、天候の影響で平成6(1994)年に渇水が起こったという事実から、水は限りある資源であり、節水を心がける必要があることを「まとめる」段階で取り上げる。

### (3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①水不足にならないように事業に携わる人々がどのような取組をしてきたかということを予想し、学習計画を立てることで、主体的な学習が展開できるようにする。
- ②浄水場の見学や、東京都水道局の事業である水道キャラバンの活用など、実際に事業にかかわる方々との対話を通して、供給の仕組みに着目し調べることができるようにする。
- ③学んできたことを総合し、飲料水が自分たちの健康な生活にとって必要不可欠の大切なものであることを考えられるように、飲料水(水道水)の入ったペットボトルのラベルに入れるキャッチコピーを考える活動を行う。そして、自分の考えたコピーや、考えた理由などをペアで交流し、お互いのラベルの共通点や相違点を比較することで、それぞれの考えを深められるようにする。
- ④「いかす」段階において、飲料水を供給する事業で学んだことを生かして、電気やガスを供給する事業についても取り上げる。

3 小単元の指導計画 (10時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点○資料【評価】)
つ か む	①自分たちの生活の中で大量の飲料水が使用されていることに気付く。	○生活の中で、毎日欠かさず家族全員が使うものについて話し合う。 ・水、電気、ガスなど ◆普段わたしたちはどのようなことにどのくらい水を使っているのだろう。 ○表やグラフを読み取りながら、水道水と生活との関連を捉えられるようにする。 ・一人当たり約230L ・トイレ、風呂、食事、洗濯	◎社会や家庭での生活の様子 ◎家庭で使われる水の量 ◎家庭での水の使われ方 【知①】
	②昔の渇水の状況を知り、飲料水の確保の大切さから問題を見出し、学習問題をつくる。	◆水が足りなくなることあるのだろうか。足りなくなったらどうなるのだろうか。 ○昭和39(1964)年の渇水の様子やその時の影響について調べ、現在との比較から学習問題をつくる。 ・水を配っている。 ・食中毒などもおこる。	◎昭和39年(1964年)の渇水の様子が分かる写真・新聞 【思①】
	水道局の人はどのようにしてたくさんきれいな水を使えるようにしたのだろう。		
	③安全に安定的にという視点から学習問題について予想し、学習計画を立てる。	○グループで話し合い、どのようにして水不足が起きないようにしてきたか予想する。 ・他の県の川の水を使った。 ・雨をためた。 ・ダムや浄水場をたくさん造った。 ○予想をもとに学習の計画を立てる	◎「雨→水源林→川→ダム→川→浄水場→給水管→家庭」といった経路が分かる資料 【態①】
調 べ る	④利根川流域のダムの建設や武蔵水路について調べ、都内外の協力について考える。	◆どのようにして使える水を増やしたのだろう。 ○利根川流域の水を使えるようにしたことを白地図や年表などにまとめ、それをもとに人々の協力と自分たちの健康な生活を関連付けて水道事業が果たした役割について考え、話し合う。	◎武蔵水路の写真、地図 ◎東京都内外のダムの地図 ◎東京都の水道施設の建設の年表と配水量の変化のグラフ 【知①】
	⑤雨水が水源林に降り飲料水になることや水源林の働きについて調べる。	◆私たちの使っている水はどこからどのようにきているのだろう。 ○雨水がどのように水道水となるのか、水源林の広がりや働きと保全について調べ、話し合う。	◎水源林の広がり分かる地図 ◎水源林の役割 【知①】
	⑥⑦浄水場の役割と仕組みを調べる。	◆どのように使える水を作っているのだろう。 ○浄水場の見学や水道局の人の話を聞いたり質問したりしながら、浄水場の仕組みや水道局の人の安全確保、安定供給のための努力について調べる。	◎浄水場の仕組み □見学をするか、東京都水道局の水道キャラバンを活用する 【知①】【思①】
ま と め	⑧水道事業が地域の人々の生活に果たしてきた役割を考え表現する。	◆わたしたちの使っている水道水にどのようなキャッチコピーをつけたらよいのだろう。 ○学習してきたことを総合して、水道水の入っているペットボトルのラベルを作り、ペアで発表し、水道水がわたしたちの生活に果たしてきた役割を考える。 ・「協力して作られた水」 ・「安心して使える水」	□水道水の入ったペットボトルを一人1本用意し、それに巻くラベルの内容を学習していたことをもとに考えるようにする。 【知②】【思②】
	水道局の人は、他県と協力したり、計画的に設備を整えたりしながら、安定して安心できる水を使えるようにしている。そしてそれは私たちの健康な生活に役立っている。		
る	⑨水の使用について自分の暮らしを振り返り、水を大切にするためにできることを考える。	◆水を大切に使うためにできることは何だろう。 ○平成6年(1994年)の渇水から、現在でも渇水の起こる可能性があることを知り、水を大切に使うための取り組みや商品を調べたり、自分たちができることを考えたりする。	◎節水のための取り組みをしている施設や商品 【思②】
い か す	⑩電気やガスを供給する事業について調べ、飲料水との共通点を考える。	◆生活に欠かせない電気やガスはどのように送られてくるのだろう。 ○飲料水で学んだことを基に、電気やガスを供給する事業について調べ、話し合う。	◎電気やガスが供給される経路 □安全、安定をキーワードに調べたり考えたりできるようにする。 【態②】

第2時の資料（つかむ）

◆水が足りなくなることはあるのだろうか。足りなくなったらどうになってしまうのだろうか。

時間的な経過に着目する。

資料 渇水の様子



（出典：水道局  
「バケツで水をもらう子ども」

資料 現在の水を飲む様子



（出典：水道局  
「じゃ口から水を飲む子供たち」

【指導上の留意点】

昭和39年の渇水の写真から水不足が起こったことと、それによって困ることを考えさせる。そのうえで、現在の簡単に飲み水が飲める写真を読み取り、時間的な経過と状況の変化から学習問題をつくるようにする。

【学習問題】

水道局の人はどのようにしてたくさんのきれいな水を使えるようにしたのだろう。

第3時の資料（調べる）

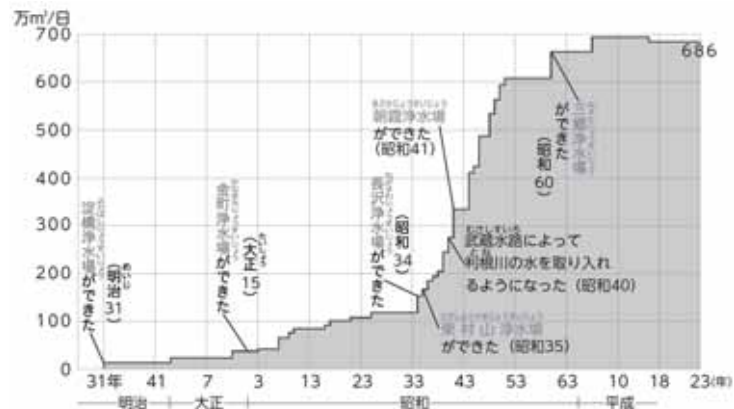
（出典：東京都水道局「わたしたちの水道」）  
◆どのようにして使える水を増やしたのだろう。

資料 利根大ぜき



資料 ダムのマップ資料

武蔵水路やダムなどの資料とダムの建設時期の年表を関連付けて都内外の協力について考える。



資料 水道水をつくることのできる量の移り変わり

【指導上の留意点】

東京都内外のダムの位置や建設時期と武蔵水路による東京都内への水の供給を関連付けて調べ、人々の協力と自分たちの健康な生活について考えられるようにする。



## 第8時の資料（まとめる）

◆わたしたちの使っている水道水にどのようなキャッチコピーをつけたらよいのだろう。

作品例

たくさんの水 つくっているよ 浄水場  
水源林 緑のダムと いわれているよ  
浄水場 初めてできてから 120年  
水道水 安心安全 ありがとう  
協力して 作られてきた水 水道水

【指導上の留意点】

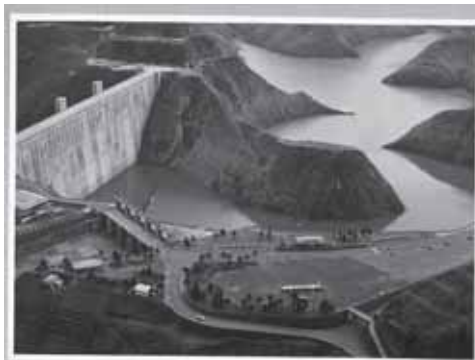
学習問題に対する自分の考えを「キャッチコピー」として短くまとめることで水道水が自分たちの生活に果たしていた役割を考えられるようにする。

ここまで学習してきたことを関連付け、総合して飲料水を供給する事業が果たす役割が分かるようにする。

## 第9時の資料（まとめる）

◆水を大切に使うためにできることは何だろう。

(出典：東京都水道局)



【指導上の留意点】

トイレを使わない、お風呂に入らないなどといった学習しなくても出るような意見にならないように、水不足の時の生活と関連付けたり、水がなかったらどのような生活になるのだろうかといった発問をしたら、切実感をもたせてから、考えさせたい。

渇水のダムと当時の新聞記事などを関連付けて自分事に捉えられるようにする。

## 第10時の資料（いかす）

◆生活に欠かせない電気やガスはどのように送られてくるのだろう。



【指導上の留意点】

水だけの指導に終始するのではなく、ガスや電気など生活に必要な不可欠なものも水と同じように最大限の配慮をしながら供給されていることを、安全、安定をキーワードにして抑えるようにする。

ガスも電気も水と同じところがたくさんあった。

私たちが困らないようにしてくれているのだね。

小単元名	ごみのしよりと利用	配当10時間	内容(2)アの(イ)及び(ウ)とイの(イ)
------	-----------	--------	-----------------------

<主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分>

## 1 小単元の目標と観点別評価規準

### (1) 目標

廃棄物を処理する事業について、処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、見学・調査したり地図などの資料を活用して調べたりしてまとめ、廃棄物の処理のための事業の様子を捉え、その事業が果たす役割を考え、表現することを通して、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、地域の人々の生活環境の維持と向上を支えていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に廃棄物の減量のために自分たちが協力できることを考えようとする態度を養う。

### (2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①廃棄物処理の仕組みや再利用の様子、県内外の人々の協力などについて、調査・見学したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、廃棄物の処理のための事業の様子を理解している。</p> <p>②調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、廃棄物処理に関する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上を支えていることを理解している。</p>	<p>①廃棄物処理の仕組みや再利用の様子、県内外の人々の協力などに着目して、問いを見出し、廃棄物の処理のための事業の様子について考え、表現している。</p> <p>②廃棄物処理の仕組みや人々の協力関係と地域の良好な生活環境を関連付けて、その事業が果たす役割を考えたり、学習したことを基に、廃棄物の減量化のために、自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして表現している。</p>	<p>①廃棄物を処理する事業について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。</p> <p>②学習したことを基に地域の人々の健康や生活環境を守るための法やきまりの大切さに気付き、地域社会の一員として、廃棄物の減量や資源の再利用について自分たちにできることを考えようとしている。</p>

## 2 指導計画の作成に当たって

### (1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(2)の「人々の健康や生活環境を支える事業」に関する内容で構成した単元である。事例としては、ごみの処理と再利用を中心に取り上げている。
- ②内容の取扱いに示された「社会生活を営む上で大切な法やきまり」「自分たちにできることを考えたり選択・判断したりできるよう配慮する」については、「まとめる」段階で、それまでに学習したことを基にしながら、法やきまりの意義について考えたり、ごみの分別や減量化について協力できることを話し合ったりするように意図している。

### (2) 教材や資料の工夫

- ①小単元の導入で、過去に起きた様々なごみ問題の資料を提示する。それを通して、ごみの問題は自分たちにとって身近であり毎日大量に出されるごみが処分されないと大変なことになるという問題意識をもたせ、社会的事象の見方・考え方(時期や時間の経過)を働かせながら、ごみ処理やその再利用に関わる事業における、改善の取組や問題解決のための人々の工夫や努力について調べたり考えたりできるようにする。

### (3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①本小単元では、ごみを収集する人、清掃工場の人、埋め立て処分場の人、地域の人などごみの処理やその再利用に携わる様々な人々に会い、実際に話を聞く場面を設定する。その中で、資料の読み取りだけでは分からない人々の工夫や努力、思いや願いにふれるよう指導を工夫することで、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。
- ②「調べる」段階において、人々の協力関係を1時間ごとに関係図などにまとめていき、様々な事業所等で働く人の関係や、自分たちの生活とのつながりなどについて整理したり、考えたりできるようにする。そして、「まとめる」段階ではそれを基に学習問題に対する自分なりの考えを表現させる。
- ③「つかむ」段階と「いかす」段階において、ごみ処理だけではなく下水処理も扱うことで、下水処理も人々の生活環境の維持と向上に大きな役割を果たしていることに気付かせる。

### 3 小単元の指導計画（10時間扱い）

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点◎資料【評価】)
つ か む	①自分たちの生活では、大量のごみが出ていることに気付く。	◆自分たちの生活からはどんなものが出されているのだろう。 ○ごみや下水が自分たちの身近にあることを知る。 ◆学校や家ではどれくらいのごみが出されているのだろう。 ○学校や家庭で出されるごみの量や種類を調べ、種類や量、出し方について話し合う。	◎わたしたちの東京都扉ページ □家庭のプライバシーに配慮する。 ◎ごみ調べをした結果 ◎東京都で1日に出されるごみの量 ◎用務主事の話【知①】
	②日常生活から出るごみを振り返り、その処理について話し合い、学習問題を立てる。	○生活の中でごみが出る場面について振り返る。 ◆もし東京でごみが集められなかったり、下水が処理されなかったりしたらどうなるかな。 ○かつて起こった様々なごみの問題について知り、ごみが収集されないといどんな問題が起こるか予想し、学習問題を立てる。	◎過去のごみ問題(ごみ戦争)の写真や映像 ◎新聞社の縮刷版 ◎地域の集積所の看板【思①】
	わたしたちが健康でくらすために、ごみはどのようにして集められ、処理されるのだろう。		
	③学習問題をもとに、学習計画を立てる。	○学習問題に対し予想したことから学習計画を立てる。 ・燃やすごみは工場で燃やしているのではないかな。 ・ペットボトルなどはどこかで作り直しているのかな。	◎地域の集積所の看板【態①】
調 べ る	④ごみの収集ルートや収集車について調べる。	◆ごみを収集する人々はたくさんのごみを残さず集めるためにどのような工夫や努力をしているのだろう。 ○ごみ収集ルートがどのように決められたのか調べたり、ごみ収集車を見学したりして、工夫や努力について調べる。	◎ごみ収集ルート地図 ◎集積所の看板 ◎ごみ収集車の実物【知①】
	⑤燃やすごみのゆくえについて調べる。	◆燃やすごみはどのように処理されるのだろう。 ○燃やすごみのゆくえについて映像やパンフレット、清掃工場の見学を通して調べ、「ごみのゆくえマップ」にまとめる。	◎ごみ処理の映像資料 ◎各市区町村のごみ処理のパンフレット【知①】
	⑥燃やさないごみ・粗大ごみのゆくえについて調べる。	◆燃やさないごみはどのように処理されるのだろう。 ○燃やさないごみ・粗大ごみのゆくえについて映像やパンフレット、施設の見学を通して調べ、「ごみのゆくえマップ」にまとめる。	◎ごみ処理の映像資料 ◎各市区町村のごみ処理のパンフレット【知①】
	⑦資源のゆくえについて調べる。	◆資源はどのように再利用されるのだろう。 ○資源のゆくえについて資料の読み取りや施設の見学を通して調べ、「ごみのゆくえマップ」にまとめる。	◎各市区町村のごみ処理のパンフレット【知①】
	⑧地域の人々のごみの減量に対する取り組みを調べる。	◆収集員や清掃工場で働く人々以外で、どんな人々がごみの減量を行っているのだろう。 ○店舗や会社、家庭でのごみの減量の取り組みについて、資料の読み取りやインタビューを通して調べる。	◎地域の人々の話 ◎店舗での資源回収の写真【知①】
ま と め る	⑨学習問題に対するまとめを表現し、ごみの減量について自分たちにできることを考える。	◆ごみの収集・処理と自分たちのくらしはどのようにかわっているのだろう。 ○学習問題に対するまとめについて考えて発表し、話し合う。	◎自分たちで作成した「ごみのゆくえマップ」【知②】
		◆ごみを減らすために、自分にできることはなんだろう。 ○自分たちの地域で抱えているごみの課題を知り、自分たちにできることを考え、ポスターなどにまとめて呼びかける。	◎埋め立て処分場の限界の資料 ◎ごみ量の推移のグラフ【思②】
い か す	⑩ごみの学習をいかして、下水処理の大切さを考える。	◆下水の処理によって人々の生活はどうなっているのだろう。 ○下水処理のようすについて、資料やゲストティーチャーの話を通して調べ、下水の処理の大切さについて考える。	◎下水道管から川や海までの処理の流れ【態②】



実践例	ごみのしよりと利用	【配当10時間】
-----	-----------	----------

### 第2時の資料（つかむ）

◆もし東京でゴミや下水がしよりにされなかったらどうなるだろう。



資料 ゴミであふれた都内の公園  
(出典：東京都環境局 HP)

廃棄物処理の様子について、時間の経過に着目する。

ゴミがしよりにされないと、わたしたちは健康に生活することができなくなってしまふんだね。今はこんなことはないよ。

くさそうだな。下水が処理されないと、川がよごれて、みんなが困ってしまうよ。

資料 生活排水で汚れた川  
(出典：東京都環境局 HP)



#### 【指導上の留意点】

ゴミや下水の処理が、人々の生活環境の維持と向上に役立っていることを理解できるようにする。また、現在の様子と比較し、廃棄物の処理事業の様子や仕組みへの関心を高める。

### 第2時の資料（つかむ）

資料 地域のごみ集積所の写真

<午前7時頃>



ゴミが袋にも入れられて集積所にきちんと置かれているよ。

<午後2時頃>



ゴミが収集されたね。集められたゴミは、誰がどのようにして処理するのだろう。

時間の経過に着目して、同じ場所の様子を比較する。

#### 【指導上の留意点】

前時でのゴミ調べから生まれた「私たちは毎日大量のゴミを出している」という疑問をもとに、集積所の資料を提示することで、ゴミ処理の仕組みやそれに携わる人々の協力で児童の問題意識を焦点化し、学習問題を立てることができる。また、ゴミ出し等の生活経験も振り返らせながら、見通しをもつことができるようにする。

#### 【学習問題】

わたしたちが健康でくらすために、ゴミはどのようにして集められ、しよりにされるのだろう。



## 第4時の資料（調べる）

資料 一筆書きのように書かれた収集ルート地図  
 (出典：知っトク地図帳 NHK for school)



ごみ収集の経路や空間的な広がりに着目する。

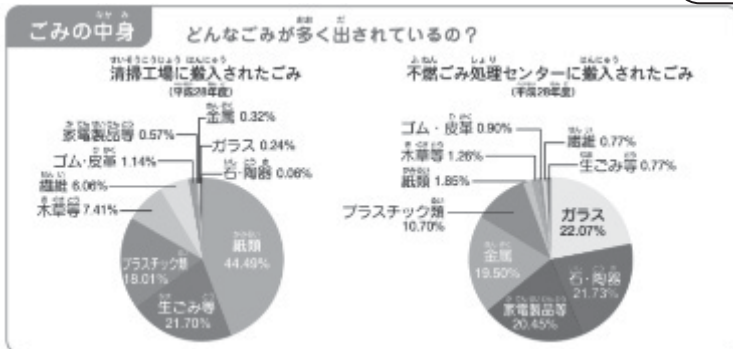
### 【指導上の留意点】

「矢印はバックで入っていく」「点線は人が住んでいないのでとばす」という情報から、収集ルートがどのように決められるのかを予想させたり、友達と相談しながら考えさせたりして、児童がより効率的に収集するための工夫や努力について理解できるようにする。

## 第9時の資料（まとめる）

資料 ごみの現状調査  
 出典：(ごみれぽ 231kids 東京二十三区一部清掃事務組合)

燃やすごみに金属やガラスがまじっていたり、不燃ごみに紙や生ごみがまじっていたりするよ。ごみのきまりが守られていないね。



### 【指導上の留意点】

学習指導要領の内容の取扱いにあるように、ごみの出し方や生活排水の処理、資源の再利用に関する法や決まりを取り上げることで、自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして、人々の生活環境の保全に関心を高めることができるようにする。

## 第10時の資料（いかす）

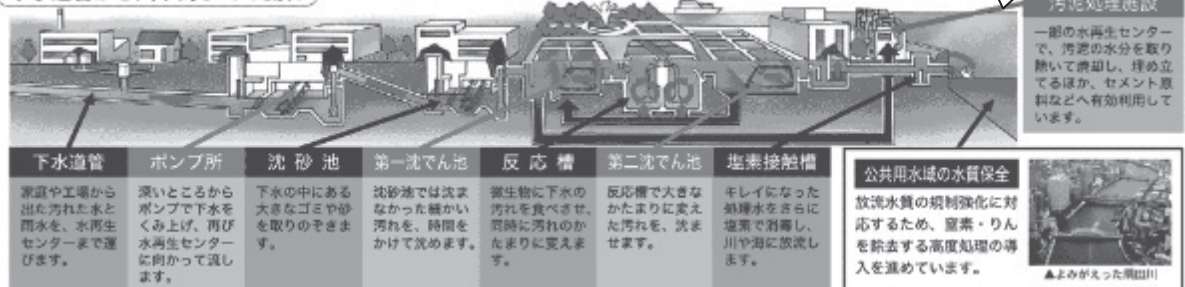
資料 下水道管から川や海までの流れ (出典：東京都下水道局 HP)

### 【指導上の留意点】

資料の読み取りから自分たちの暮らしと下水と自然環境が一つの管でつながっていることを実感させ、下水処理もごみ処理と同様に、自分たちの生活環境の維持と向上を支えていることを児童が理解できるようにする。

わたしたちが使った下水は、ごみと同じように人々の努力によってきれいに処理されているんだね。

### 下水道管から川や海までの流れ



小単元名	地震からくらしを守る	配当 1 2時間	内容(3)アの(ア)及び(イ)とイの(ア)
------	------------	----------	-----------------------

<主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分>

## 1 単元の目標と観点別評価規準

### (1) 目標

自然災害から人々を守る活動について、過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりしてまとめ、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現することを通して、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される自然災害に対し、様々な備えをしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に地域社会の一員として自然災害から自身の安全を守り、自然災害の備えに取り組もうとする態度を養う。

### (2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などについて、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、災害から人々を守る活動を理解している。 ② 調べたことを図や文などにまとめ、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される自然災害に対し、様々な備えをしていることを理解している。	① 過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、問いを見出し、災害から人々を守る活動について考え表現している。 ② 自然災害が発生した際の被害状況と災害から人々を守る活動を関連付けて、それらの働きを考えたり、学習したことを基に、地域で起こり得る災害を想定し、自分たちにできることを選択・判断したりして、適切に表現している。	① 自然災害から人々を守る活動について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ② よりよい社会を考え、学習したことを基に、地域社会の一員として、自身の安全を守る取組や、関係機関や地域の人々への協力を考えようとしている。

## 2 指導計画の作成に当たって

### (1) 学習指導要領との関連

- ① 本小単元は、内容(3)の「自然災害から人々を守る活動」に関する内容で構成した単元である。事例としては、火山の噴火及び地震を中心に取り上げている。
- ② 内容の取扱いに示された「地域で起こり得る災害を想定し、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできることなどを考えたり、選択・判断したりできるよう配慮する」ことについては、「いかす」段階で子供が地域の課題やその対策を具体的に知り、それらを生かして減災のためにできることを考えるように意図している。

### (2) 教材や資料の工夫

- ① 導入時に都内で過去に起こった主な自然災害を取り上げ、様々な災害が繰り返し起こっていることに気付かせる。そして、その中で昭和61(1986)年の大島三原山の噴火を取り上げる。噴火に際しては、迅速に全島避難を実施し、島民は都内各地に設けられた避難所で生活することとなった。都内の各地域で取り扱うことのできる事例であり、東京都や国の働きも捉えやすい事例と考える。そして、都の過去の自然災害への対応や備えについて、社会的事象の見方・考え方(時期や時間の経過、位置や空間的な広がり)を働かせながら、関心をもって主体的に追究できるようにする。
- ② 「調べる」段階において、副校長や地域の自主防災組織の方、区役所や都庁の防災担当の方などを教材として取り上げる。実際に社会で働く方から直接話を聞くことができ、社会的事象の見方・考え方(事象や人々の相互関係)を働かせながら自然災害から人々を守る活動について、実感的に調べたり考えたりできるようにする。

### (3) 学習展開や学習活動の工夫

- ① 「つかむ」段階において、過去の火山災害における関係機関の具体的な働きや協力の様子を取り上げることで、地震災害についての学習問題に対して、予想をしたり、学習計画を立てたりする際に、見通しをもたせやすくし、児童の主体的な問題解決を促す。
- ② 「調べる」「まとめる」段階において、分かったことを関連図などに表す活動を取り入れることにより、関係機関相互の協力や、その働きについて、自分とのつながりを意識しながら考えられるようにする。また、それを基に説明し合ったり意見を交流し合ったりするなど対話的な学習を通して、自分の考えを深められるようにする。

### 3 小単元の指導計画 (12時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される児童の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 【評価】)
つ か む	① 都内における過去の自然災害について調べ、様々な災害が起きていることを知る。	◆ 私たちの東京都では、どのような自然災害が起こってきたのだろう。 ○ 年表や写真資料から、東京都内の自然災害の様子を調べて、気が付いたことを話し合い、読み取る。	□ 東京都には、様々な自然災害が起きていること、特に水害による被害が多いことを知り、関心をもてるようにする。 ◎ 東京都の自然災害年表【知①】
	② 大島の噴火や全島避難の様子について調べ、様々な人々が支援をしていたことを理解する。	○ 三原山の位置や噴火による被害状況を調べる。 ◆ 噴火から人々を守るために、だれがどのようなことをしたのだろう。 ○ 避難に向けて協力した人たちの様子を調べる。 ・ 島の人たち以外にも、多くの人が協力して避難を完了させた。 ○ 多くの人が様々な場所に分かれて避難生活を送っていたことを調べ、市区や都の働きについて知る。 ・ 都を中心に様々な機関が協力して、避難者の生活を支えている。	◎ 日本地図、伊豆大島の地図 ◎ 三原山噴火被害の写真や映像 ◎ 避難生活の様子が分かる写真や映像資料 ◎ 避難先を示した東京都の地図【知①】
	③ 過去の東京都の自然災害について調べ、学習問題をつくる。	◆ 東京都では、これまでにどのような災害が起きたのだろう。 ○ 年表から、東京都で過去に起きた自然災害を読み取る。 ○ 今後、大きな地震が起きる可能性があることを知る。 ・ 地震は広範囲で被害が大きい。どう対応しているのだろう。 地震から私たちの生活を守るために、だれがどのようなことをしているのだろう。	◎ 東京都の自然災害の年表 ◎ 東日本大震災での被害の写真 □ 年表の先に今後想定される災害を示す。【思①】
	④ 学習問題の予想を考え、学習計画を立てる。	◆ 誰が、どのように地震の備えや対応をしているのだろう。 ○ 予想を書いた短冊を時系列で整理し、地震が発生する前後で調べる内容を整理し、学習計画を立てる。	□ 噴火への対応や、警察の学習を想起させる。 【態①】
調 べ る	⑤ 学校では地震に備えてどのようなことをしているか調べる。	◆ 学校は地震に備えて、どのようなことをしているのだろう。 ○ 校内の地震に備えた施設や設備を調べる。 ○ 学校の役割について副校長先生の話を知ったり、分からないことを質問したりする。 ○ 調べて分かったことを関連図①にまとめる。	◎ 校舎内の地震対策設備設置図 □ 副校長から、地域や区役所との協力の様子について話してもらおう。 【知①】
	⑥ 地域では地震に備えてどのようなことをしているか調べる。	◆ 地域の人々は地震に備えて、どのようなことをしているのだろう。 ○ 地域の自主防災組織の方の話を知ったり、質問したりする。 ○ 学校に設置される避難所の運営について調べる。 ・ 地域の人々が中心となり、区役所などと協力して運営している。 ○ 調べて分かったことを、関連図②にまとめる。	◎ 避難所の範囲を示した地図 □ 自主防災組織の方から、学校や区役所との協力の様子についても話してもらおう。【知①】
	⑦ 区役所では地震に備えてどのようなことをしているか調べる	◆ 区役所では地震に備えて、どのようなことをしているのだろう。 ○ 区役所の防災担当の方の話を知ろう。 ・ 日頃から地震に備えた対策を24時間体制で取っていてすごい。 ○ 区役所の防災担当の方に、分からないことを質問する。	◎ 区役所の防災担当の方の話 □ 区役所の防災組織の方から、地域や学校との協力についても話してもらおう。【知①】
	⑧ 区役所では地震発生の際に、どのように対応しているか調べる。	◆ 区役所では地震が起きたら、関係機関と協力して、どのような対応をするのだろう。 ○ 資料から地震発生時の関係機関相互の協力体制を読み取る。 ・ 備えを生かして、すぐに様々な機関との協力体制が取られている。 ○ 区役所を調べて分かったことを関連図③にまとめる。	◎ 地震発生時の関係機関相互の協力体制の様子が分かる資料 □ 東京都との協力の様子について気付くことができるようにする。【思①】
ま と め る	⑨ 地震の際に、東京都はどのようなことをしているか調べる。	◆ 東京都は地震に備え、どのようなことをしているのだろう。 ○ 資料から地震発生時の都庁を含めた関係機関相互の協力体制の様子や、自衛隊の働きについて調べる。 ・ 大きな被害の対応には、自衛隊などの都や国の協力も必要だ。 ○ 調べて分かったことを、関連図④にまとめる。	◎ 地震が発生時の、都庁を含めた関係機関相互の協力体制の様子が分かる資料 □ 自衛隊との協力の様子について読み取らせる。【知①】
	⑩ 学習を振り返り、全体の関連図にまとめ、理解する。	◆ 地震から私たちの生活を守るために、だれがどのようなことをしているのだろう。 ○ 関連図①～④を振り返り、全体の関連図にまとめる。 ・ 様々な関係機関が協力して、私たちの生活を守ってくれている。	◎ 関連図①～④ □ これまでの資料を振り返るようにする。 【知②】
	⑪ 学習問題に対する自分の考えをまとめ、発表する。	○ 全体の関連図を基に、私たちの生活の安全を守る上で中心的な役割を担うのはどこかについて話し合う。 ○ 学習問題に対する自分の考えをノートに書き、発表する。 ・ 都庁や市(区)役所、警察署や消防署、消防団などの関係機関と地域の人々は、過去の自然災害の発生状況などを踏まえ、協力して様々な情報を収集したり、訓練を行ったりしながら、地震による被害を防いだり減らしたりするための備えをするなどして、地域の人々の安全を守っている。	□ 複数の全体の関連図を紹介し、比べることで、話し合う視点をもたせる。【思②】
い か す	⑫ 自然災害から安全を守るために、自分たちができることを考える。	◆ 地震の被害を最小限にするために、自分たちは、どのようなことができるだろう。 ○ 地域の課題を踏まえた取組について知る。 ○ 取組を基に、問いに対する自分の考えをまとめ、話し合う。 ・ 日頃から情報等に関心をもち、地震の際の行動の仕方を考える。 ・ 自分たちも防災訓練に参加して、いざというときに備える。	◎ 地域の課題が分かる資料 □ 自分にできることとして考えを限定させないようにする 【思②】【態②】



小単元名	水害からくらしを守る	配当 1 2時間	内容(3)アの(ア)及び(イ)とイの(ア)
------	------------	----------	-----------------------

＜主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分＞

## 1 小単元の目標と観点別評価規準

### (1) 目標

自然災害から人々を守る活動について、過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりしてまとめ、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現することを通して、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に地域社会の一員として自然災害から自身の安全を守り、自然災害の備えに取り組もうとする態度を養う。

### (2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、災害から人々を守る活動を理解している。</p> <p>②聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、年表などにまとめ、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解している。</p>	<p>①過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して問いを見出し、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現している。</p> <p>②自然災害が発生した際の被害状況と災害から人々を守る活動を関連付けて、それらの働きを考えたり、に、地域で起こり得る災害を想定し、自分たちにできることを選択・判断したりして、適切に表現している。</p>	<p>①自然災害から人々を守る活動について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。</p> <p>②よりよい社会を考え、学習したことを基に、地域社会の一員として、自身の安全を守る取組や、関係機関や地域の人々への協力を考えようとしている。</p>

## 2 指導計画の作成に当たって

### (1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(3)の「自然災害から人々を守る活動」に関する内容で構成した単元である。事例としては、水害を中心に取り上げている。
- ②内容の取扱いに示された「地域で起こり得る災害を想定し、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできることなどを考えたり、選択・判断したりできるよう配慮する」ことについては、「いかす」段階で子供が地域の課題やその対策を具体的に知り、それらを生かして減災のためにできることを考えるように意図している。

### (2) 教材や資料の工夫

- ①導入時に東京都において過去に発生した自然災害の年表や地図等を活用して調べることを通して、社会的事象の見方・考え方(時期や時間の経過、位置や空間的な広がり)を働かせながら、様々な自然災害が繰り返し起こっていることに気付かせ、その対策について関心を高め、主体的に追究できるようにする。
- ②「調べる」段階において、副校長や地域の自主防災組織の方、区役所や都庁の防災担当の方などの取組を教材として取り上げる。実際に社会で働く方から直接話を聞くことにより、社会的事象の見方・考え方(事象や人々の相互関係)を働かせながら自然災害から人々を守る活動について、実感的に調べたり考えたりできるようにする。

### (3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①「つかむ」段階において年表を用いて東京都における災害発生状況を時間の経過から俯瞰した後に、白地図に被害地をプロットし、空間的な広がりからも捉える。そして、繰り返し起こっている水害に焦点化して学習問題をつくり、問題意識をもって主体的に追究できるようにする。
- ②「調べる」「まとめる」段階において毎回、調べて分かった事実を「水防の手引き」にまとめていき、最後に一冊の本を作成する。また、随時、分かったことを関連図に表す活動を取り入れることにより、関係機関相互の協力や、その働きについて、自分とのつながりを意識しながら考えられるようにする。また、それを基に説明し合ったり意見を交流し合ったりするなど対話的な学習を通して、自分の考えを深められるようにする。



### 3 小単元の指導計画 (12時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料【評価】)
つかむ	①都内における過去の自然災害について調べ、様々な水害が起きていることを知る。	◆私たちの東京都では、どのような自然災害が起きているのだろうか。 ○年表や写真資料から、東京都内の自然災害の様子を調べて、気が付いたことを話し合い、読み取る。	□東京都には、様々な自然災害が起きていること、特に水害による被害が多いことを理解できるようにする。 ◎東京都の自然災害年表 【知①】
	②過去に起こった水害に対する対処を調べる。	◆水害から人々を守るために、だれが、どのようなことをしたのだろうか。 ○多摩川水害の様子や対応について、資料を活用して調べる。	◎当時の新聞記事や映像 □関係機関が連携して救助にあたったことを関係図にまとめ、理解する。 【知①】
	③水害被害の変化の資料から疑問を話し合い、学習問題を立てる。	◆水害の被害はどのように変わっているのだろうか。 ○東京都における大雨の回数と浸水被害数のグラフを比べ、疑問を集約して学習問題を作る。	◎大雨発生率と浸水被害のグラフ □2つのグラフを比べ、疑問をもてるようにする。 【思①】
	④学習問題に対する予想をし、学習計画を立てる。	◆水害に備えて、誰が、どのようなことをしているのだろうか。 ○学習問題に対する予想をし、学習計画を立てる。 ○どのように調べるかを話し合う。	◎善福寺川の氾濫の写真 □かつて浸水被害のあった杉並区を取り上げ、資料をもとに予想を立てる。 【態①】
調べ	⑤⑥水害を防ぐための、東京都の取組について調べる。	◆東京都は水害を防ぐために、どのような取組をしているのだろうか。 ○水害に備えた施設の工夫について見学や聞き取り、資料を通して調べ、その対策について話し合う。 ・川の護岸工事、地下調整池、公園貯留等 ・上流域の森林の保全	◎写真やパンフレット等 □備えという視点をもって追究する。 □施設の共通していることを考え、キャッチフレーズにまとめる。 □調べたことを毎時間「水防の手引き」に整理していく。 【知①】
	⑦水害を防ぐための杉並区の取組について調べる。	◆杉並区では水害の被害を防ぐためにどのような取組をしているのだろうか。 ○区役所の方にインタビューをし、取組を調べる。 ・情報収集と発信、防災会議、都や区との連携 ○ハザードマップから、想定外の水害を調べる。	◎杉並区役所防災課の方の話 ◎水防の手引き □区役所が区民の防災意識を高めようとしていることを理解する。 【知①】
	⑧水害に備えるための地域の人々の取組について調べる。	◆地域の人々は水害の被害を防ぐためにどのような取組をしているのだろうか。 ○防災訓練には東京都や区、地域が関わって備えていることを調べる。 ・合同防災訓練、災害対応備品	□行政が協力をして、すぐに川の様子が見られるようになっていくことに気付くようにする。 【知①】 ◎合同防災訓練・防災会議の様子
まとめる	⑨⑩⑪学習を振り返り、学習問題について考え、パンフレット(「水防の手引き」)にまとめる。	◆水害からくらしを守るために、誰が、どのような取組をしているのだろうか。 ○東京都や杉並区の備えについて調べたことを手引きにまとめる。 ○学習問題について話し合い、そこから考えたことを話し合う。	□災害から人々の暮らしを守るために、様々な機関が関わっていること、工事や施設の管理など備えがあることをおさえる。 【知②】【思②】 ◎東京都の災害年表 ◎東京防災
いかす		・都や区、地域や関係機関の人々は、過去の被害を踏まえて災害に備えた施設づくりや、情報収集・発信、防災会議や防災訓練の実施などを協力して行い、水害に対する備えをし、水害からくらしを守っている。	
	⑫想定外の豪雨の被害や備えについて調べ、自分たちができることを考え話し合う。	◆自分たちにはどのようなことができるだろうか。 ○想定外の豪雨について調べる。 ○自然災害から命を守るために、自分たちができることを考え、話し合う。 ○考えを発表し合い、自然災害に対する備えの意識を高める。 ・水害があったときは、すぐに情報を得て、避難に備えよう。	□水害が起きたら、どのような行動をとればいいのか、今までの学習を生かしながら考えるよう助言する。 ◎想定外の豪雨の頻度 ◎都市型水害の写真資料 □自分にできることを調べ、考えたことをまとめる。 【態②】